

Quick × Quick

919919.jp

自動車業界動向

2024.05.20

クイック・ネットワーク株式会社



Quick Network
www.quicknetwork.co.jp

Quick×ワンプライス成約車輻 4月度ランキング

軽自動車



1位	タント 平均 H28年	746,000円
2位	ワゴンR 平均 H29年	602,000円
3位	N-BOX 平均 H31年	928,000円
4位	ミライース 平均 H30年	533,000円
5位	スペーシア 平均 H30年	880,000円

コンパクト



1位	プリウス 平均 H28年	1,227,000円
2位	アクア 平均 H28年	941,000円
3位	フィット 平均 H27年	793,000円
4位	ノート 平均 H29年	833,000円
5位	パッソ 平均 H27年	395,000円

ミニバン・1BOX



1位	セレナ 平均 H28年	1,320,000円
2位	シエンタ 平均 H30年	1,280,000円
3位	ヴォクシー 平均 H27年	1,464,000円
4位	アルファード 平均 H30年	3,573,000円
5位	ノア 平均 H28年	1,718,000円

SUV・クロカン



1位	ハリアー 平均 H30年	2,369,000円
2位	エクストレイル 平均 H26年	1,015,000円
3位	ランドクルーザープラド 平均 H31年	4,144,000円
4位	ヴェゼル 平均 H31年	1,894,000円
5位	CX-5 平均 H29年	1,683,000円

輸入車



1位	MINI 平均 H28年	1,900,000円
2位	Cクラス 平均 H30年	3,084,000円
3位	3シリーズ 平均 H31年	2,980,000円
4位	Eクラス 平均 H28年	2,500,000円
5位	Sクラス 平均 H25年	3,104,000円

バン・トラック

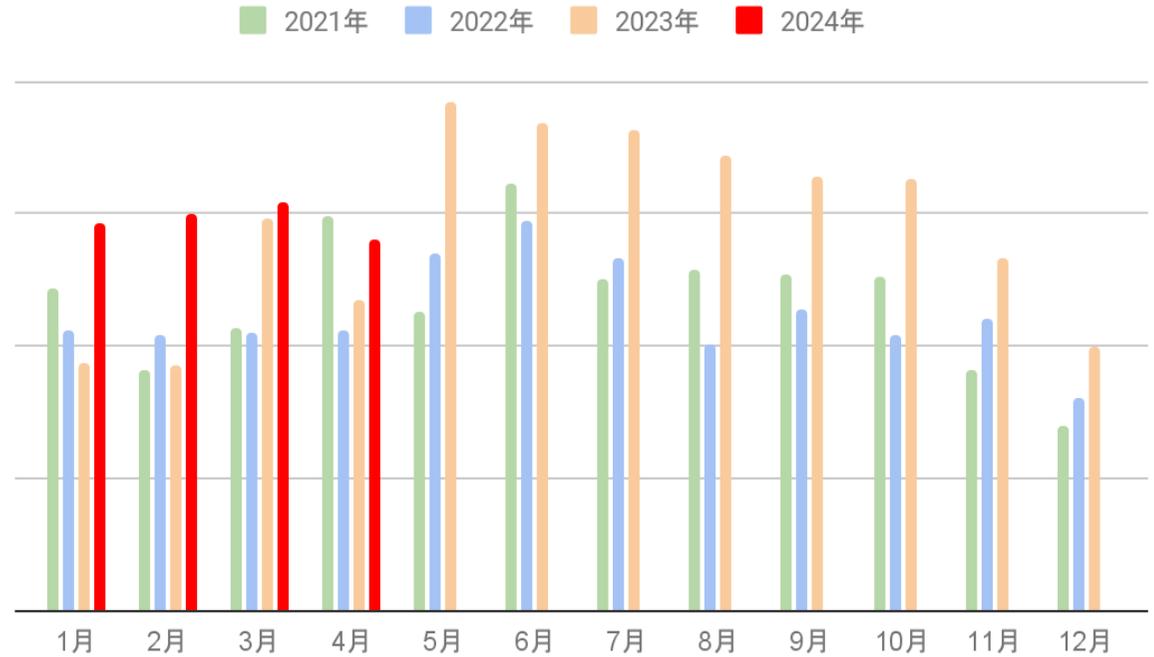


1位	ハイエースバン 平均 H26年	1,835,000円
2位	NV350キャラバンバン 平均 H28年	1,322,000円
3位	エルフトラック 平均 H25年	1,941,000円
4位	キャンター 平均 H25年	1,474,000円
5位	デュトロ 平均 H25年	2,243,000円

中古車輸出情報

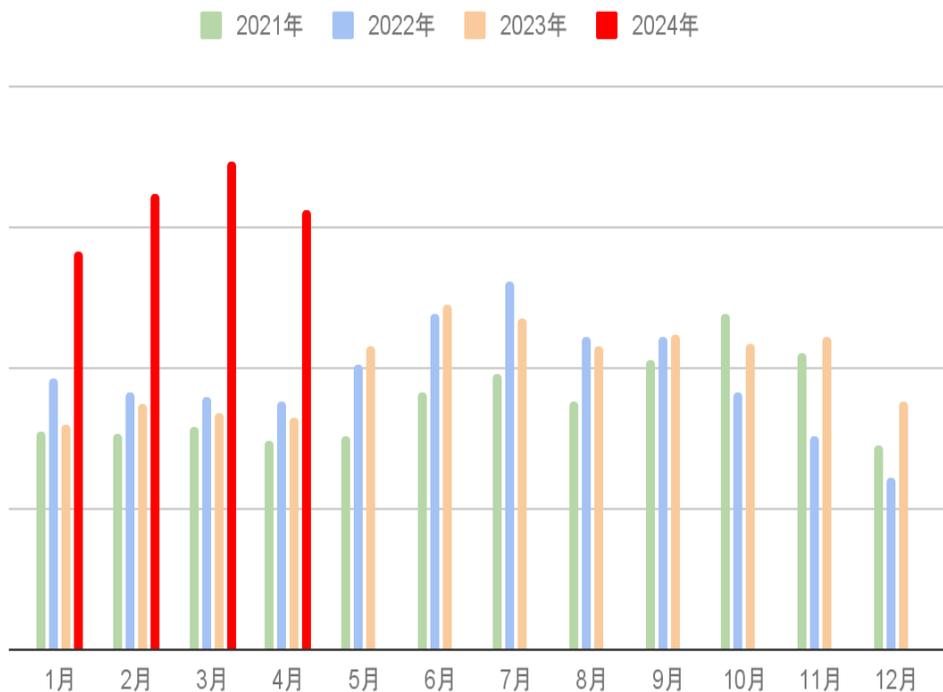
2024年4月 Quick×ワンプライス 輸出向け成約車両ランキング		
1位	フォレスター	
	平均年式 H28年	平均金額 1,605,000円
2位	ハリアー	
	平均年式 H29年	平均金額 2,002,000円
3位	アルファード	
	平均年式 H29年	平均金額 3,288,000円
4位	ダイナトラック	
	平均年式 H29年	平均金額 1,950,000円
5位	CX-5	
	平均年式 H29年	平均金額 1,637,000円

Quick×ワンプライス輸出向け成約台数

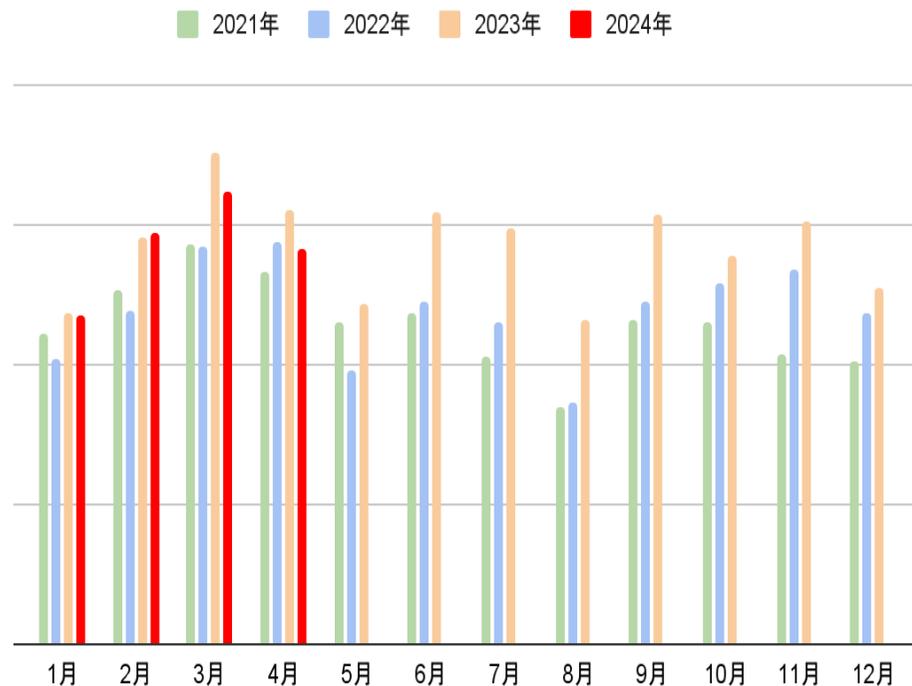


Quick×ワンプライス出品成約状況

Quick×ワンプライス入札件数



主要AA会場出品台数



前年4月
平均単価 170,4万円

→

今年4月
平均単価 167,1万円

前年4月
平均単価 73,3万円

→

今年4月
平均単価 99,5万円

2024年 3月 新車販売ランキング

乗用車				
順位	ブランド通称名	ブランド名	台数	前年同月比
1	ヤリス	トヨタ	13765	97.3
2	カローラ	トヨタ	12969	121.6
3	シエンタ	トヨタ	10337	112.4
4	ヴェゼル	ホンダ	7752	259.4
5	アルファード	トヨタ	6704	164.6
6	ノート	日産	6013	83.2
7	ヴォクシー	トヨタ	5716	88.0
8	セレナ	日産	5694	87.5
9	ノア	トヨタ	5454	77.7
10	ハリアー	トヨタ	5278	75.4
11	ステップワゴン	ホンダ	5023	214.1
12	フィット	ホンダ	4944	138.8
13	アクア	トヨタ	4632	83.2
14	フリード	ホンダ	4535	84.9
15	プリウス	トヨタ	4452	56.8

軽自動車				
順位	ブランド通称名	ブランド名	台数	前年同月比
1	N-BOX	ホンダ	14947	99.7
2	スペーシア	スズキ	12532	125.1
3	ハスラー	スズキ	7507	185.3
4	ワゴンR	スズキ	6129	126.3
5	アルト	スズキ	5949	101.8
6	デリカミニ/eK	三菱	4992	459.2
7	ルークス	日産	3902	107.0
8	ミラ	ダイハツ	3360	60.6
9	ジムニー	スズキ	3095	94.7
10	デイズ	日産	2795	131.0
11	N-WGN	ホンダ	2091	93.1
12	タント	ダイハツ	1866	15.6
13	エブリイワゴン	スズキ	1397	105.2
14	N-ONE	ホンダ	1276	92.7
15	フレアワゴン	マツダ	1058	106.5

「一般社団法人 日本自動車販売協会連合会」及び「一般社団法人 全国軽自動車協会連合会」より引用

自動車業界トピックス

【特集】2023年度を振り返る

目まぐるしく変化する自動車業界

2023年度（23年4月～24年3月）は、コロナ禍や半導体不足の影響が多少残ったが、時間の経過とともに徐々に改善され、年度末には影響はわずかとなった。新車メーカーの増産にともない販売も回復、前年を上まわるとともに、10月には4年ぶりに「ジャパンモビリティショー（JMS）2023」が開催。改名して初となるモーターショーには、目標とする100万人を大幅に超える来場者が訪れ、自動車に対する関心の高さをうかがわせた。一方、夏頃からは大手中古車販売店と損保会社による保険金不正請求問題が大々的に報じられた。さらには、4月に発表されたダイハツの認証に関する不正も、年末から年明けにかけて大きな展開を迎え、不安と不信を招いた年度でもあった。目まぐるしく変化する世界経済の中で、自動車業界も例外ではなく、その渦にのまれていった。今号では、23年度の自動車業界を各種数値と関係者の声を交えながら振り返っていく。（福井伸幸）



【新車販売は2年連続で前年を超える】

23年度の新車販売台数（含軽、日本自動車販売協会連合会発表）は、2年連続で前年の販売台数を上回り、前年比3・3%増の452万8628台となった（図①）。

22年9月には、深刻な半導体不足の緩和や一部メーカーの国内向け生産台数の割合増加により新車販売台数は好転、前年を上回る実績で推移した。しかし、ダイハツに続き、23年の年末に発覚した豊田自動織機の認証不正問題が新車販売に大きく影響し、16カ月続いた新車販売の前年越えは、24年1月をもって前年割れに転落した。

登録車と軽自動車で見ると、登録車は290万3187台（前年比107・8%）と大きく伸長。23年1月から12月までは毎月2桁の伸びを見せていたが、24年1月以降は前年を下回っている。一方、軽自動車は162万5441台（同96・0%）と前年を下回った。特に不正により生産が停止されたダイハツの影響は大きく、24年1月から3月までの新車販売台数は前年を2割以上下回った。

業界関係者は、「新車の長納期が徐々に緩和されてきているが、中古車小売りも堅調に推移しており、新車、中古車の両方で利益を創出する経営体質がコロナ禍で浸透してきた印象」（関西



参照：日本自動車販売協会連合会発表と全国軽自動車協会連合会の発表数値を合算

地区ディーラー関係者）や「前年度より新車・中古車ともに販売は好調であった。ただ、月によって販売台数にバラつきがあり、安定して毎月売れたとは言えない。年末年始に掛ける新車生産を一時停止したメーカーがあり、2月、3月は新車販売が特に好調であった」（首都圏ディーラー関係者）、また「ダイハツ車をベースにしたカスタム車を年末までは安定して販売していたが、生産が止まったことで、急遽ベース車両の変更を余儀なくされ戸惑った。ベース車両として安定した品質とユーザーからの人気も高かったが、生産停止は販売台数とカスタムの仕様変更にも大きく影響した」（東海エリア新車中古車併売店）など、年末までは新車市場全体が好転しており、好調に推移していたが、年明け以降は、ダイハツの不正問題を中心に販売店も状況が一変した結果となった。

【信頼回復が問われる中古車業界】

23年度の中古車登録台数（日本自動車販売協会連合会調べ、23年4月～24年2月）は、4月以降、新車生産の回復を受け堅調に推移、2月まで11カ月連続で前年実績を上回っている。2月時点での登録台数は318万台を超え、3月の登録台数が前年と同じ40万台強であった場合、23年度は360万台を超え、22年度の347万台を大きく上回る事となる。

一方、軽自動車（全国軽自動車協会連合会発表、23年4月～24年2月）の軽四輪車中古車販売台数は、2月時点で248万8756台。4月こそ前年実績を下回ったものの、5月以降は安定して前年を上回った。登録車同様、3月の実績が前年並みで推移した場合、年度実績では約289万台となり、前年を約7万台上回る。23年の中古車登録総台数は登録車、軽とともに前年実績を上回る見通しだ（図②）。



※2023年度3月実績が未発表の為、22年度3月台数を暫定値として代入して算出
参照：日本自動車販売協会連合会発表資料

また、23年度は中古車販売において2つの大きなニュースがあった。1つは保険金不正請求を始めとする大手中古車販売の不祥事。これについては、1企業の問題に留まらず中古車業界全体に対する不信として、問題視された。もう1つは、10月から開始された支払総額表示の義務化だ。背景には、一部販売店による、不適切な中古車販売方法を是正するためであり、前述した大手中古車販売店だけでなく、不当な価格表示の常態化や安価な車両価格で集客しておきながら、実際には高額な諸費用を要求したりするなど、おとり広告に近い実態がみられたことが、義務化の要因である。

業界関係者は、「大手販売店を中心とした不正問題の影響と、10月以降の総額表示の影響がわれわれ中古車専門店に厳しくのしかかっている。中古車小売り市場はディーラー販売店を中心に活発に動いていて、中古車専門店離れが加速している。厳しい市場環境の中で、来期の展望は難しく、大きな困難に直面している」（西日本地区の中古車ブローカー）や「23年度の販売は通しで見ると良いとは言えない。月によって流れが変わり、ユーザーや市場の流れが掴みにくい一年であった」（東日本地区中古車販売店）など厳しい声が上がった。

グーネット自動車流通新聞より引用

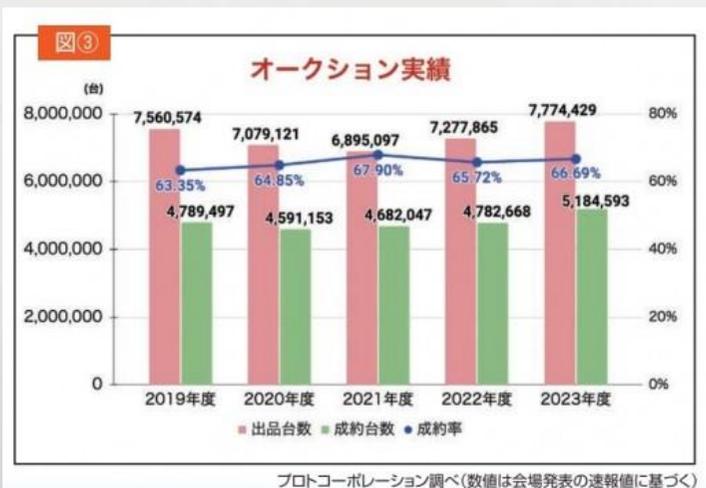
グーネット自動車流通新聞より引用

自動車業界トピックス

【年明けから状況が一変したオークション】

23年度の国内オートオークション（AA）実績（主催者発表速報値集計、プロトコーポレーション調べ）は、総出品台数が前年比6・8%増の777万4429台、成約台数が同8・4%増の518万4593台、成約率は同1・0ポイント増の66・7%という高実績だった（図③）。ただし、24年1月から状況が急変。ダイハツの不正などで、新車供給が滞り流通市場に流れる中古車が減少することの危機感から、AAでは買いが先行、出品台数減少につながり、3カ月連続で出品台数は前年を下回った。一方、タマ不足から成約率は上昇傾向で推移、足元の3月では全国の平均成約率は62・7%を記録、前年を10・8%上回る結果となった。

業界関係者は、「年度の後半は成約率も高く活発に競られている。出品車不足では無いが、開催毎に売れるため、出品台数は伸びない状況。そのため、成約単価も上がり会員様からは『高く買えない』との声も聞く」（東日本AA関係者）や「小規模の中古車専門店で廃業の動きが加速している。インボイスへの対応なども大きく影響する中、事業継承を諦め、負債を累積する前の段階で、事業を清算する動きだ」（西日本地区AA関係者）の他、「2024年問題の一環として、オークション会場では保有過多となったトラックの出品が増えている。事業者の企業努力のみに頼るのではなく、国としての政策面、取引業者側のオフピーク戦略等も重要となる」（自動車業界関係者）との声が聞こえる。



【円安を背景に好調を維持する輸出】

日本中古車輸出業共同組合発表の中古車輸出台数を見ると、23年4月～24年2月の中古車輸出台数は、好調であった22年度を約27万台上回る143万7881台（前年比123・9%）で推移。3月の結果が前年と同数の約12万台だとしても、年度で155万台を超える結果だ（図④）。長期的な円安を背景に、ロシアを中心にアラブ首長国連邦（UAE）やニュージーランド、モンゴル、タンザニアへの輸出は24年度も積極的に行われると思われる。

グーネット自動車流通新聞より引用



業界関係者の声は、「円安が海外バイヤーの全体的な購買意欲を高めている。特にロシア向け中古車輸出の勢いは衰えておらず、韓国、モンゴル、ドバイを中心とした国を經由して輸出されている」（中古車輸出コンサルタント）や「ウクライナ戦争を続けるロシアへのさらなる規制強化の可能性、外貨流出防止や自国産業の保護等を目的とする各国の新規規制の発生など、読み切れないリスクも存在」（自動車業界関係者）、また、「ロシアへの輸出規制の影響が大きく、状況を変えた一部では、モンゴルや韓国、UAEを介したロシア向け輸出ルートも活用されていると聞かすが、高コストというネックもあり、そこまで奮っていない」（輸出関連会社バイヤー）など、規制が入ってもなお、輸出台数トップを続けるロシアの話題は多い。

新型コロナウイルスや半導体不足など、ここ数年世界経済はもとより自動車業界に大きな爪痕を残した問題は収まりつつある。しかしながら、極端な円安やウクライナ紛争などの問題が依然としてある中、日本国内においては、不正認証や大手中古車販売店を発端とした中古車不信、そしてトラックドライバーの労働時間を制限した『2024年問題』など各分野での問題は多い。問題解決を先送りにするのではなく、長期視野で物事を捉えるとともに、1つずつ解決していく必要がある。



グーネット自動車流通新聞より引用

自動車業界トピックス

「日産サクラ」
2023年度の国内販売で電気自動車販売台数No.1を獲得



日産自動車株式会社（本社：神奈川県横浜市西区、社長：内田 誠）は、2023年度（2023年4月-2024年3月累計）の国内販売で、「日産サクラ」の販売が34,083台となり、2022年度に引き続き、2年連続で電気自動車（EV）販売台数No.1を獲得したと発表しました。

軽の電気自動車、「日産サクラ」は、軽自動車ならではの小回り性能に加え、圧倒的な静粛性や力強くなめらかな加速、上質で洗練されたデザイン、日常使いに十分な航続距離、充実した先進技術などに加え、お求めやすい車両価格やランニングコストなどがお客さまから好評を得ています。また、国内における数々の賞を受賞するなど、その商品力と安全性の高さも評価されています。

毎日のお出かけを共にする新たなクルマの選択肢として「日産サクラ」をお選びいただくお客さまが増えた結果、2023年度の国内EV販売台数において、約41%を本モデルが占めるなど、日本市場におけるEV普及をけん引し、今回の販売台数No.1につながりました。また、環境負荷低減、およびBCP対策を目的とした法人や自治体での導入も進み、営業車や商品配送、さらには空港内での荷物輸送の牽引車としてなど、さまざまな場所で活躍をしています。

なお、「日産サクラ」は、30%以上のお客さまが充実した装備を備えた最上位のGグレードを選択されています。またボディカラーは、ホワイトパールが1番の人気カラーで、次いでホワイトパール/チタニウムグレー 2トーンが好評です。

日産自動車公式HPより引用

新型『トライトン』
2024年「ANCAP」で最高ランクの5☆を獲得



～豪州・ニュージーランドの最新格付基準で、ダブルキャブとして初～

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長兼最高経営責任者：加藤 隆雄、以下三菱自動車）の新型1トンピックアップトラック『トライトン*1』が、豪州・ニュージーランドの新車を対象に安全性能を総合評価する「ANCAP*2」で、最高評価となる5☆（ファイブスター）を獲得*3しました。2023～2025年の最新格付基準において、ダブルキャブのピックアップトラックとして同評価を獲得するのは、この新型『トライトン』が初となり、同カテゴリーで唯一となります。なお、同車はアセアン地域の新車の安全性能を総合評価する「ASEAN NCAP*4」でも、最高評価となる5☆（ファイブスター）を2023年12月に獲得しています。

三菱自動車は、交通事故ゼロのクルマ社会に向けた安全理念を掲げ、安全技術の開発・普及と、交通安全教育の2つの側面から取り組みを進めています。

新型『トライトン』は、衝突時のエネルギー吸収とキャビンの変形抑制を両立させた衝突安全強化ボディ「RISE*5」に加え、高い乗員保護性能を実現するよう設計したシートベルトと8個のSRSエアバッグ*6を採用。また、全車に標準装備した横滑り防止装置「ASTC*7」をはじめとした安全装備や、衝突被害軽減ブレーキシステム【FCM*8】などの採用により高い予防安全性能も確保しています。

新型『トライトン』は1978年に発売された『フォルテ』をルーツとする1トンピックアップトラックで、以来45年間で5世代にわたり約570万台を生産、世界約150カ国で販売してきた三菱自動車の世界戦略車です。「Power for Adventure」という商品コンセプトのもと、内外装デザインからシャシー、ラダーフレーム、エンジンなどを一新し、2023年7月より生産工場のあるタイで販売を開始。2024年1月にはフィリピン、2月に日本、3月には豪州、ニュージーランドへ投入。今後、世界約100カ国へ順次投入していきます。

- *1：『トライトン』は一部の国・地域では『L200』として販売
- *2：Australasian New Car Assessment Program
- *3：ダブルキャブの全グレードの2WD、4WDモデルが対象
- *4：New Car Assessment Program for Southeast Asian Countries
- *5：Reinforced Impact Safety Evolution
- *6：装備はボディタイプとグレードによる
- *7：Active Stability and Traction Control
- *8：Forward Collision Mitigation system、歩行者・自転車運転者検知付

三菱自動車公式HPより引用

Quick×ワンプライス 成約UPのテクニック!!

Quick×ワンプライスでは、大手中古車貿易サイトや中古車リース会社との連携出品がスタートし、徐々に輸出向け車輛・リース会社向け車輛の成約が増えてきています。是非とも出品内容を精査・修正し、成約UPを目指しましょう!!

海外向け成約のコツ!!

★ 初度登録を月まで登録!

(輸出は国によって年式規制がある為、登録月までわかる事で成約になるケースが多いです!)

★ 長さ・幅・高さを入力!

(車輛のサイズによって、輸出する際の運賃が決まります)

★ 写真は4分割を活用してできるだけ多く!

そして下記の内容が伝わる事で成約への近道となります!

- ・ 下回りの画像・給油口のサビ確認画像 (サビ・フシヨク状況がわかるもの)
- ・ タイヤの残ミゾやスタッドレスか夏タイヤかがわかる画像
- ・ 装備品のスイッチ類の画像 (オプション品やスペアキー等も)
- ・ チェックランプ点灯状況や故障内容などがわかる画像 (メーター画像) 又は文言



Quick×Quickへの出品例

現狀価格: 99 万円 (税別) 状態: 在庫

新車時から同じナンバー
外フェンダー 1K2 ディーゼルトーボ

トヨタ	5	SUV/ワゴン	3.5
ランドクルーザープラド	4WD	3.0 Diesel Turbo	ZWD
3000 cc	KD-KZJ 95W		A ① C
2600	0000	フロア AT	
パール	1C1	KD-KZJ-WAG	
11,550			

★ 初年度を月まで登録

★ 4分割画像の作成機能の活用

★ 長さ・幅・高さを入力

★ 4分割画像の作成機能の活用で

下廻り・装備品など状態の判る画像の掲載



オークション会場からの輸送も 個人宅への輸送もお任せ!!

Quick×Quick
会員限定!!

輸送料金にご不満の方!!
まずは輸送料金だけでも
比べて下さい

Quick×輸送

お客様の声



いつもより1万円も安くて助かった!



個人宅にも対応してくれて助かった!

千葉県野田市から



例①: クラウン
例②: セレナ (背高)

宮城県 仙台市青葉区 (税抜)	埼玉県 さいたま市大宮区 (税抜)	静岡県 浜松市中区 (税抜)	大阪府 大阪市住吉区 (税抜)	福岡県 福岡市博多区 (税抜)
① 21,400円 ② 25,400円	① 10,400円 ② 12,200円	① 19,400円 ② 22,900円	① 26,400円 ② 31,400円	① 35,900円 ② 42,800円

愛知県東海市から



例①: クラウン
例②: セレナ (背高)

宮城県 仙台市青葉区 (税抜)	埼玉県 さいたま市大宮区 (税抜)	静岡県 浜松市中区 (税抜)	大阪府 大阪市住吉区 (税抜)	福岡県 福岡市博多区 (税抜)
① 26,500円 ② 31,700円	① 18,500円 ② 22,100円	① 10,100円 ② 12,000円	① 13,500円 ② 16,100円	① 28,500円 ② 34,100円

兵庫県神戸市東灘区から



例①: クラウン
例②: セレナ (背高)

宮城県 仙台市青葉区 (税抜)	埼玉県 さいたま市大宮区 (税抜)	静岡県 浜松市中区 (税抜)	大阪府 阪市住吉区 (税抜)	福岡県 福岡市博多区 (税抜)
① 33,000円 ② 39,600円	① 26,000円 ② 31,200円	① 25,500円 ② 30,500円	① 5,500円 ② 6,600円	① 25,300円 ② 30,400円

※上記は一例となります、実際の輸送金額はお問合せ下さい。

Quick×Quick 便利ツール

1石12鳥! カンタン出品!
「安心落札! ワンプラの決定版」

Quick×Quick



Quick名変
車庫・名変・抹消・電子申請サービス

- 車庫と名変で**5,300円** (税込5,830円)
(手数料一律・OSS申請の場合)
- 全国の行政書士をマッチング
- 県外封印 (プライム会員のみ)
- アプリ無料

詳しくはコチラ ▶



Quick×輸送

オークション会場からの輸送も、個人宅への輸送もお任せ下さい!!

輸送料金 比べて下さい!!



Quick×Quick
廃車出張買取サービス

買取金額 地域 No.1 挑戦中!!



ヤフオク! 月額 10,000円^(税別) で 出品し放題!!

台数無制限

Quick×モバイル

「出品車両メンテナンス / 出品車両検索・商談 / ヤフオクメンテナンス / Quick×輸送」



Quick×Quick PRO

車販店の為のオールインワンプラットフォーム



Quick×Quick会員なら多くの便利なサービスをご利用頂けます!!